

意見書案第16号

高齢者の医療費窓口負担増に反対する意見書

上記の意見書を次のとおり提出する。

平成25年12月19日提出

提出者
向日市議会議員 常盤 ゆかり
賛成者
向日市議会議員 飛鳥井 佳子

高齢者の医療費窓口負担増に反対する意見書

今、国会で審議されている「社会保障制度改革プログラム法案」の中で、70～74歳の医療費窓口負担が来年4月から現行の1割から2割に引き上げる、とされている。しかし、これは、決して医療費削減に通じるものではない。負担増により、受診を控えた高齢者は、早期発見・早期治療の機会が失われ、重症化が進み、逆に医療費が膨張する懸念すらある。高齢者の窓口負担が軽減されることによって、心身の健康状態が改善される世界的な研究成果もある。

「プログラム法案」は、「自助・自立のための環境整備」として、国民を無理やり「自助」に追い込むものである。しかし、国は本来、憲法25条にもとづく社会保障に責任をもつべきである。

よって、国におかれては、70～74歳の医療費窓口負担増を中止して、高齢者の安心医療を保障されるように、強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成25年12月19日

京都府向日市議会